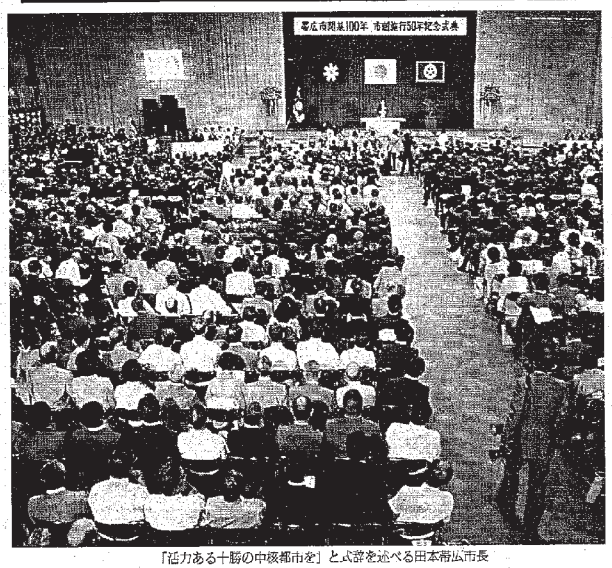
（1）　第1万6,846号　（昭和27年8月1日第3種郵便物認可・釧銭局特別扱承認102号）　十勝毎日新聞　昭和57年8月8日（日曜日）　大正8年創刊　（日刊）

決意新たに開拓2世紀へ

帯広市開基100年・市制施行50年記念式典

先人の功労をたたえ

二千人出席　力強く発展を誓う



「活力ある十勝の中核都市を」と式辞を述べる田本帯広市長

帯広市は、明治十年、依田勉三ら晩成社一行が開墾のクワを入れてから今年で百年目を迎えた。未踏の大地が、わずか百年で、日本一の畑作農業地帯と言われるまでに成長した裏には、厳しい風雪に耐え先人の言い知れぬ苦労があった。その功労をたたえ、帯広二世紀と飛躍するエネルギーとするための「帯広市開基百年・市制施行五十年記念式典」が八日、市内十勝会館で盛大に開かれた。

依田勉三氏代表をはじめ晩成社一行が開墾の地と定めた帯広の地に着いてから、ちょうど百年目の節目の年。

この日、式典には、市内外から約二千人が出席、開基の功労者の遺族らに感謝状が贈られたほか、帯広の発展に尽くした功労者ら六百二十人が表彰された。

式典に先立ち、帯広二世紀と飛躍するエネルギーとするための「帯広市開基百年・市制施行五十年記念式典」が八月八日、十勝会館で盛大に開かれた。

依田勉三氏代表をはじめ晩成社一行が開墾の地と定めた帯広の地に着いてから、ちょうど百年目の節目の年。

この日、式典には、市内外から約二千人が出席、開基の功労者の遺族らに感謝状が贈られたほか、帯広の発展に尽くした功労者ら六百二十人が表彰された。

開拓魂受け継ごう

帯広市長　田本憲吾

勇敢十六戸、情熱と勤労をもって開墾のクワを入れた依田勉三ら晩成社の一行十二戸、二十七人が、この帯広に入植してから、ちょうど百年目を迎えました。

晩成の地にたどりついた一行が抱いた夢と希望を、いま私たちは、どのように受け継ぎ、どのように発展させているでしょうか。

原野のクワ入れから百年、開拓魂受け継ぎ、新しい歴史をつくり、うつ然たる大都市をめざし、歩を進めてきました。

それは、百年先の後輩たちに、きょうの私たちがいかに評価されるかということでもあります。

二世紀に向かって大きく羽ばたこうとするとき、わたしたちは先人の苦労をしのび、その開拓魂を受け継ぎ、新たな歴史を築いていくことが、私たちに課せられた使命であると考えます。

幸いにも、私たちは、恵まれた自然条件のもとで、豊かな農業を営むことができ、また、先人の築いた広大な都市基盤の上に、安定した都市生活を送ることができます。

しかし、私たちの周辺には、解決しなければならない問題が山積しています。

例えば、人口減少社会の到来、高齢化社会への対応、地方の時代にふさわしい地域づくりなどの課題であります。

これらの課題に対処するためには、市民一人ひとりが、自分たちの住むまちに誇りと愛着を持ち、自分たちの力でまちをつくっていくという自主自立の精神を基本に、市民と行政が一体となって、知恵と力を結集していくことが大切であります。

幸いにも、帯広には、豊かな自然と、広大な都市基盤、そして、何よりも、すばらしい市民性があります。

私たちは、この恵まれた条件を最大限に生かし、活力ある十勝の中核都市を目指して、新たな一歩を踏み出さなければなりません。

わたしたち自身が、この帯広の地に誇りと愛着を持ち、自分たちの力でまちをつくっていくという自主自立の精神を基本に、市民と行政が一体となって、知恵と力を結集していくことが大切であります。

幸いにも、帯広には、豊かな自然と、広大な都市基盤の上に、安定した都市生活を送ることができます。

しかし、私たちの周辺には、解決しなければならない問題が山積しています。

例えば、人口減少社会の到来、高齢化社会への対応、地方の時代にふさわしい地域づくりなどの課題であります。

これらの課題に対処するためには、市民一人ひとりが、自分たちの住むまちに